

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800766		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと敷島		
所在地	山梨県甲斐市中下条1603番地1		
自己評価作成日	平成23年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開所より8年目となり開所当初より共に生活している利用者様の状態も年々変化しています。以前より外出の機会は減少していますが、個々に合わせたリズムで外出ができるようスタッフ同心がけ実施しています。職員の離職率が低いため、利用者様と職員が顔なじみとなりお互いに、助け合い支えあいながら日々生活しています。平成23年中には事業所移転により新しい地域での生活がスタートすることとなりました。利用者様、ご家族の思いを大切にしながら心から安心、信頼していただけるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

表通りから少し入った閑静な住宅街の中にあり、周囲には民家の畑が点在し生活観や季節の移ろいも実感できる環境にある。現在利用者は地域や職員の温かい支援の中、穏やかな日々を過ごされている。事業所は来月(12月)に少し離れた地域に移転する為、今後、環境の変化に伴い予測される利用者のとまどいや諸問題につき、現在職員一同で前向きな話し合いや、準備が行われている。「一人ひとりの利用者のレベルに合った支援を」の考え方が全職員の中に徹底している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームふるさと敷島

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念も掲げ、職員全員が理解し、日々利用者に関わっている。	理念を壁に掲げ、朝の申し送り時に復唱している。職員の定着率が高く安定している為、職員全員が理念を理解して、日々の支援に活かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入り、折々の行事やお祭りに参加している。近所の商店への買い物の際、お店の方との会話も楽しみの一つになっている。	組に入っている。河川清掃や地域のお祭りや、避難訓練などの行事に参加している。天気の良い日には近くの保育園迄散歩に行く。事業所の納涼会には地域住民が訪れてくれるなど、地域との心温かい交流がある為、地区から離れがたい思いもある。セラピードック犬がいて、利用者の心を和ませている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校の職場体験を受け入れ、認知症の理解をしていただける機会を作っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現況報告や行事への意見、感想などいただき、今後の活動の参考にしていく。改善点については職員会議を開き検討し、取り組んでいる。	民生委員、行政、家族代表、事業所代表の会議で、現在は移転に伴う問題が多い。家族の不安には細やかな説明をしている、外出に対する要望や意見は、利用者のレベルに合わせ少人数での外出で回数を増やす等、出された意見を職員会議で検討し、運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の業務の中で悩みや不明な点が生じた場合には都度、助言や意見をいただいている。今年度は特に事業所移転に伴い相談する機会が多く、市担当者には快く相談にのっていただいている。	市の担当者は運営推進会議に参加されている為、平素より、事業所の実情を把握している。現在は移転に伴う手続きや、書類に関する報告や相談がほとんどだが、その都度適切な指導やアドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」を全職員が理解している。職員で勉強会を行い身体拘束ゼロにむけ取り組んでいる。玄関の施錠を含めて拘束はしていない。	職員一同が「待つケア」を心掛けている為拘束はしていない。外出した利用者には職員と一緒に歩き散歩して帰り、お茶を飲む、等で気分転換する。車で一巡りして帰ってくる事もある。スピーチロックも危険が無い限り見守り、言葉には出さない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会を積極的に行いケアに役立てている。虐待を発見した場合の報告義務などについても徹底し、職員間で意見交換をしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とするケースは今までにないが、研修を受講し理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、改定時には書面と口頭で説明している。疑問や不明点があった場合にはいつでも連絡していただきたいことを家族に伝え、問い合わせ等があった際には速やかに対応している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情の窓口及び意見箱を設置している。公的な相談窓口の連絡先も書面・口頭で説明している。一日の中で利用者さんの居室でゆったりと話を聞く時間をもつよう工夫している。家族の訪問時には距離感がなく話ができるように全職員が心がけている。	家族の面会時には、意見の出し易い雰囲気作りに努めている。家族より、平日の行事は家族が参加しにくい、外出の頻度を増やしてほしい等の意見があり、職員会議で検討しレベルに合わせた少人数での外出にする等可能な事は運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月実施し、意見交換を行っている。職員と管理者及び代表者との信頼関係があり、気軽に意見をだせる関係もできている。	普段から職員と管理者との信頼関係が築かれており、気軽に意見は出せている。職員より移転に関する不安の意見が多い。また利用者が病院受診の折、以前は家族対応となっていたが、職員から管理者へ提案して現在80パーセントは家族と共に職員も付き添っている。会議は管理者、職員共にほぼ全員が参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は職員の実績及び勤務状況を把握し、給与水準等、向上心をもって働くことができるよう職場環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて自主的に事業所内外の研修に積極的に参加するよう促している。研修の内容にかかわらず全て勤務時間内扱いになっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修などを通し、交流を図り、意見交換を行っている。施設見学をお互いに行ったり、職員同士での悩みなど話し、良い刺激になっている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と直接会い、思いや不安について話をゆっくり聞いている。出来る限りの情報を提供していただき、全職員が情報を共有し同じ方向性で支援させていただく事を徹底している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と直接会い、家族の思い、要望、不安を聞き、出来る限り思いに添えるよう支援させていただくことを伝えている。特に入所時は利用者の状態、日々の生活状況、体調等こまめに報告している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を良く聞き、管理者・ケアマネジャーなどが相談内容を確認、把握している。その後、支援全体を検討し必要なサービス等対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの生活歴や心身状況を把握した上で日々、楽しく穏やかに生活していただけるよう支援している。また人生の先輩である利用者を尊重し、職員は常に学ぶ姿勢で共に生活している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員が同じ気持ちで利用者を支えられるよう、家族の思いには常に耳を傾けている。家族、職員間で情報交換を行いケア内容を統一している。面会時には家族の時間、空間を大切にいただけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、来訪者が面会しやすい雰囲気作り に努めている。知人とお中元やお歳暮、病氣見舞いなども含め手紙の交流など利用者の希望により積極的に支援している。	知人、家族との手紙のやり取りで、週2回手紙が届く利用者もいる。中元や歳暮のやり取りや面会の人と外食に行ったり、また、家族と共に静岡迄墓参りに行って来た利用者もいる。レベルが下がり馴染みの理、美容院に行けなくなった利用者には、出張で来てもらい馴染みの関係が途切れないよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のかかわりの中で、利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者には職員が寄り添い、コミュニケーションや他の利用者とのかかわりのきっかけになるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者のお見舞いに行ったり、亡くなった利用者の家族との交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を日常生活の会話や表情の中で把握し、職員間で情報を共有している。本人が意思疎通が困難な場合は生活暦等をもとに家族や知人からお話をいただき検討している。	日常生活の中で利用者の思いや希望を汲み取り、申し送り時に職員で話し合い、情報を共有している。内容によってはケアマネジャーに報告して計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話を通し、ひとつでも多く、馴染みや安心のヒントが得られるように努力している。過去のサービス利用がある方は事業所等から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況や日々の状態を個人記録に記入し、定期的に職員間でカンファレンスを行い、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者を含めた担当者会議を定期的に開催し、利用者の希望に添った生活実現のための介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングを行い、介護計画の継続、変更を行っている。	担当者会議後ケアマネジャーが計画を作成している。定期的にモニタリングを行い計画の継続、修正が行われている。大きな状況変化がある場合は必要に応じてケース会議で検討して計画を修正、変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にはADL状況はもちろん、食事摂取量・バイタルチェック・排泄の記入、言動や表情から見られる精神面の記入などを行い、本人の心身面の生活全体を把握している。ケア会議の中で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院受診や面会時の家族の送迎など、本人や家族の状況や要望に応じて対応している。個々の希望による外出や買い物、ドライブなど出来る限り支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店を利用し、買い物をしながら顔なじみになった地域の方々との会話も楽しむことができている。近所の行きつけの美容院に定期的に通う利用者もいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の利用を重視し、本人、家族の希望に応じたかかりつけ医を決めている。隣接している認知症専門医の診療所を活用し、本人・家族の安心につながるよう支援している。	本人、家族の希望で利用者の半数は、入居前のかかりつけ医を継続している。県外からの利用者は近くの医師に変更している。受診後は伝達ノートで申し送り、全職員で情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師と情報交換しながら、ケアを行っている。利用者の健康管理・状態変化に応じた支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は職員が面会に行き、食事介助のお手伝いしている。環境の変化による精神的不安の解消に努めている。早期退院ができるよう病院関係者との情報交換をしている。家族の相談にも都度対応し、希望があれば病院からの説明時にも同席している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や折に触れ、重度化および終末期について家族に希望を聞き、事業所としてできることや方針をお話している。医療行為が必要な場合、現状では入院することがほとんどである。今年度はターミナルケアを経験し職員の自信にもなっている。	入居時や電話などで折に触れ、家族の意向を確認している。医療行為が出来ない為、希望があれば事業所で看れる所まで支援して最終的に入院する形を取っている。入院後1週間で亡くなったケースがあり、ターミナル支援として職員の経験となった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的看護職員指導のもと、緊急時対応の指導を受けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行っている。不在職員の緊急招集訓練も実施している。近所の協力体制も出来ている。	年2回、避難訓練や伝達、召集訓練を行っている。消防署立会いで消火器の使い方をマスターした。近所の方の協力体制も確認できている。夜勤者は電話の子機と、携帯電話を常に身につけ緊急事態発生に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を職員全員が心がけ、実践している。特に入浴や排泄、着衣交換の際にはプライバシーを損ねないように、配慮し工夫している。	職員一同が、利用者一人ひとりに合った言葉掛けや、対応を心掛けている。排泄時や入浴時もプライバシーに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりにあった自己決定ができる環境づくりをしている。(洋服選びや食事のメニューなど)出来る限り、時間にゆとりをもち「待つケア」を心がけ実践している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、郵便局へ用事など都度対応している。食事の時間帯など本人の状態や希望に添った支援を心がけている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の美容院に出かけたり、必要に応じて洋服を買いに出かける。男性の利用者も毎月床屋に行くことを楽しみにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けにはそれぞれ役割をもっている。外食や、季節・行事の際にリクエストがあり食事への楽しみをもっていたけように工夫している。職員も一緒に食事をし、会話をしながら楽しい時間を過ごしている。	男性の利用者がランチョマットを敷いたり、箸置きを並べている。食後の器を盆の上を集めるといった作業はその人のレベルに合ったもので参加している。職員とテーブルを囲み和やかに食事を楽しんでいる。誕生会などは希望の外食に出掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態を提供している。食事量・水分量は職員が把握している。その日の状態や気候等により、量や内容など臨機応変に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行っている。口腔内をチェックし問題が生じている場合は専門機関を受診している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、本人の排泄パターンを把握し、全職員が共有している。一人ひとりにあった誘導時間を検討し、無理なく快適な排泄ができるよう支援している。	排泄の自立は1名。オムツ使用は1名。他はパットを使用しているが全員が尿意がある。チェック表でパターンを把握し声掛けや誘導をして快適に過ごせるよう支援している。オムツ使用の利用者もポータブルトイレで排泄をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防もふくめ毎日軽体操を実施している。排便チェックを行い、便秘傾向の場合は繊維食材やヨーグルトの提供や腹部マッサージを行っている。必要に応じて主治医へ相談し対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、自由に入浴できるように支援している。バイタルや身体状況に問題がなければゆっくり入浴していただいている。女性の利用者には同性職員が対応している。	風呂は毎日利用可能。1日おきの利用者は2名いる。体調を見ながら利用者全員、週2回は入浴できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や状態にあわせて昼寝を促したり、好きな時間、場所でくつろいでいただいている。夜眠れないと訴えのある方には職員と会話をしたり、穏やかに過ごしていただけるよう日中の生活リズムを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の疾患、それに伴う服薬の用法・用量を把握している。身体状況の変化により、薬の内容に変更があった場合は都度、管理者が徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族、知り合いからの話や生活歴の中から本人の楽しみごとにつながるものを見つけ支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など個々のペースや希望にあわせて外出している。県外への外出希望がある方には家族と相談しながら体調をみて支援したケースもある。	男性利用者が多い為集団での外出は困難であり、個々の希望やペースに合わせ少数での買い物や散歩などに出掛けている。家族の面会時に一緒に外出する事もあり、家族と共に静岡へ出掛けてきた利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は財布を持っていたり、買い物に出かけたときには自分で支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話をしていただいている。携帯電話を持っている利用者もいる。知人や友人からの手紙のやりとりも多く、季節の絵手紙やお祝いの報告など利用者にとって楽しみや刺激になっている。散歩もかねて郵便局へ出かけるなど対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはみんなで作成した季節の飾りや、思い出の写真を貼り、日常生活の中で会話や笑顔のきっかけになるよう明るい雰囲気づくりを心がけている。12月中には事業所が新築移転するため設備的にも今まで以上に居心地よく過ごしていただけたと考えている。	ピアノが置かれているホールは男性が5名 女性3名で静かに落ち着いた雰囲気の中で生活している。入り口の窓からは大きな松が見え、廊下の壁には利用者の日々の写真が貼られ 大きな吊るし飾りが飾られている。ホールの窓からは隣近所の生活が見えて洗濯物や柿がたわわになっている風景などが見えて心安らぐ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・玄関入口にソファがあり、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れた家具や飾り等、持参している。お仏壇やコタツなど本人の希望にあわせ、心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	作り付けのタンス以外は入居時それぞれが使い慣れた家具、ベット、仏壇など持参され各自に合った部屋作りがされている。ベットの利用者、カーペットに布団を敷く利用者それぞれが自分らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態の変化を職員間で話し合い、都度必要に応じて居室に手すりを設置したり、安全に過ごしていただくための工夫をしている。		